

平成五年度文学部公開講座講演録（学内）

第十二回 立正大学文学部公開講座

歴史に見る人間の生き方

共催	品川区教育委員会
立正大学文学部	
期間	平成五年九月二十九日～十月二十七日
会場	立正大学大崎校舎

第一回 九月二十九日（水）

◎ 山を好きにした人々

——志賀重昂を中心に——

文学部教授（地理学） 正井泰夫

日本人は、いつから山が好きになったのだろうか。その昔は、山を畏敬の念をもって見ていた。山は信仰の対象であり、やがて信仰のために登るようになった。時には湯治の為に山へ入るようにもなった。

このような状態は江戸時代まで続いた。明治になって、志賀重昂の「日本風景論」が出、小島烏水らの支持を得て、山への関心が高まった。ナショナルリズムの影響は勿論あったが、近代主義、科学的見方の影響も当然あったと考えられる。ウェストンによる「日本アルプス」の「発見」は、登山やハイキングの一般化を促進した。白樺派の文人による「白樺賛歌」は、山への憧れを高めたことだろう。木暮理太郎の「山の憶ひ出」は、熱烈な山の愛好者を増やした。

深田久弥の「日本百名山」も同様である。軽井沢の別荘地化は、山をファッションの対象としたのである。

第二回 十月六日（水）

◎ シェイクスピアの人間観 —— この世はすべて演劇なり ——

文学部教授（英米文学） 大島 芳材

シェイクスピアは、一五六四年イギリスの田舎町ストラットフォードの商人の子として生まれ、町の文法学校に通い、十八歳で八歳年上の女性と結婚、三人の子どもができ、それからロンドンに出て芝居を書き始める。「ハムレット」「ロミオとジュリエット」「ヴェニスの商人」など貴族から下層の人々、男と女、老人と若者、それにあらゆる人々が登場するその戯曲は実におもしろく、今日さかんに上演されて拍手喝采を受けている。彼は「芝居とは昔も今も鏡をかかげて世の中を写し出すもの」と自ら言っているが、人間のさまざまな姿を實直に、しかも風刺的に描くのを得意とする。彼の人間観とは如何なるものかという問題を探りつつ、芝居のおもしろさを語ってみたい。

第三回 十月二十日（水）

◎ 乱世の詩人 —— 心敬と宗祇 ——

文学部教授（国文学） 白井 忠功

応仁の乱（応仁元年一四六七—文明九年一四七七）は、十年に亘る戦争であった。花の都京は焼け野原と化し、「汝や知ル都ハ野辺ノ夕雲雀アカルヲ見テモ落ツル涙ハ」（『応仁記』）の状態であった。この乱を避けて、多くの貴族文人たちは地方へ疎開して行った。

詩人（連歌師）心敬・宗祇の二人は、東国（河越、品川、会津、白河）にあって、文学愛好の人たちに古典を教え、連歌の会を催すなど、文学活動が盛んであった。それらの様相を語ってみたいと思うのである。

応仁のころ、世のみだれ侍りしとき、あづまにくだりて、つかうまつりける

雲はなおさだめある世の時雨かな 心敬

おなじころ、信濃にくだりて時雨の発句に

世にふるもさらに時雨のやどりかな 宗祇

第四回 十月二十七日（水）

### ◎ 中世の僧侶に見る「死の儀礼」

文学部教授（歴史学） 中尾 堯

慢性的に戦乱が続く中世にあって、「生きる」ということはつねに「死」とのつながりにおいて意識された。「生死」をめぐる様々な観念をめぐる、階級の如何を問わず人々の間でいろいろと論じられた事が、それをよく物語っている。しかも、生と死の問題は単に観念的に止まるものではなく、きわめて具体的なイメージをもって描きあげられる。このような「生死」観がもっとも明確に表出するのは、中世の僧侶にみる「死の儀礼」においてである。当代の僧侶たちは、宗教者として現世を精一杯生きた。かれらが人生の帰結として演じたこの儀礼の中に、その生き方を探り出すことは、現代に生きる私たちにとって「生」を考えるうえで、大きな意味を持つに違いない。

（以上、受講生募集パンフレットより）

平成五年度文学部公開講座（学外）

公開講座委員長 河北 騰

テーマ 国際化問題と環境問題について考える

日時 平成五年十一月十四日（日）・十一月二十一日（日） 午後一時半より四時半まで

会場 群馬県高崎市末広町 高崎市中央公民館ホール

後援 高崎市中央公民館

講師とテーマ

第一日

木崎良平教授（西洋史学・ロシア史専攻）

「日露交渉史と今後の展望」

藤田秀雄教授（教育学・社会教育専攻）

「国際化時代の日本人のあり方」

第二日

西川 治教授（地理学・地理学原論・比較風土論専攻）

「人の住む星 —— その地利と環境 ——」

新井 正教授（地理学・自然地理学専攻）

「大気と水と地球環境」

文学部では、地方の文化の発展と生涯学習事業への貢献という大学の役割を自覚して、例年、公開講座を各地方で実施しているが、平成五年度は右のような要領で行なった。

今回は、現今強く叫ばれている国際的視野を高めて行くことと、今一つ、切実な地球の環境問題に注目して、多くの人々に真剣に考えて頂く事を目的に、後援者側の要望に応え、四人の講師にそれぞれ専門の造詣を傾けての、たいへん貴重な講演をして頂くことができた。

聴講者からも、真摯な質問や意見が続出し、毎回、時間を忘れて問題点の探求や、将来の生き方への大きな指標を探り得た事の歓びを示されるなど、はなはだ好評裡に終了した。いろいろとお世話になった各方面に対して、心から厚くお礼を申し上げて、この記録を終わりたい。